

平成26年度事業報告

法人本部(管理部)

1 理事会・評議員会開催状況

理事会および評議員会を下記のとおり実施した。5月開催の理事会、評議員会は前年度(平成25年度)事業報告、決算報告および評議員改選が主要議案であった。11月開催の理事会、評議員会は平成26年度上半期事業報告および補正予算が主要議案であり、1月開催の理事会はグループホームのスプリンクラー設置工事に伴う業者選定や入札方法等の審議を行った。平成27年3月開催の理事会、評議員会は次年度(平成27年度)事業計画および収支予算が主要議案であった。いずれも事務局提案どおり承認された。

[理事会]	第87回理事会(平成26年度第1回)	平成26年5月26日開催
	第88回理事会(平成26年度第2回)	平成26年11月27日開催
	第89回理事会(平成26年度第3回)	平成27年1月22日開催
	第90回理事会(平成26年度第4回)	平成27年3月26日開催
[評議員会]	第52回評議員会(平成26年度第1回)	平成26年5月26日開催
	第53回評議員会(平成26年度第2回)	平成26年11月27日開催
	第54回評議員会(平成26年度第3回)	平成27年3月26日開催

2 運営概況

(1) 法人経営

理事長および役員級職員による経営会議を定期的で開催し、新規事業、人事等の重要事項等について意思決定を行った。事業執行は各事業部および各事業所の管理職によって構成する運営会議を定期的で開催し迅速かつ円滑な事業運営を行った。

(2) 人事労務等

定期昇給を実施し、一時金は前年度実績を支給した。最低賃金改定に伴い非常勤職員の時給単価を改定し、さらに新年度(平成27年度)に向け非常勤職員の時給単価の改定(ベースアップ)を行った。資格取得支援を行った。

(3) 予決算および会計

平成26年11月と平成27年3月の2度にわたる補正予算を経て平成26年度の資金収支ベースでは約2,100万円の黒字となり、このうち1,200万円を積み立て、残額はキャッシュフローとして次期繰り越し処理を行う(第2号議案にて提案・説明)。

平成27年度からの社会福祉法人新会計基準の適用に向け準備を行った。

3 事業概況

(1) 事業関係

新規グループホーム(2か所)の開設準備を行い、平成27年3月に「ハウスLm」「ハウスMu u」を開設した。

(2) 苦情解決事業関係

平成26年度は苦情の申し出が多数(8件)発生したため、対人サービスを提供する福祉事業者として深刻に受けとめ、然るべき対応を行った。

事故防止、利用者支援の向上、福祉サービスを充実させるため、法人全事業所において前年度(平成25年度)に発生した苦情、事故事件、ヒヤリハット等を苦情解決事業第3者委員等に報告する会議を平成26年12月に開催した。

4 その他

消防法改正に対応するため、横浜市の補助を受けグループホーム(8か所)のスプリンクラー設置工事を行った。

障害福祉部門

事業第1部

市内北部方面の入所施設、通所施設、グループホーム、移動支援および居宅支援など大規模施設から地域点在型小規模施設、地域生活サービスなど多種多様な事業を所管するため運営理念や支援方針を確認し、監督職会議、デイ全体ミーティング、ナイト全体ミーティングを行った。「東やまたレジデンス」では地域移行担当が中心になり、入所施設からの地域移行型と在宅者中心のグループホームを2か所開設した。入所施設利用者の地域移行に伴い5名の入居者を決定した。

施設支援1課(東やまた工房)

1 事業概況

生活介護(定員38名)、短期入所(定員1名)、日中一時支援(定員1名)の障害福祉サービスを提供した。体制は課長、係長のもと2作業室に常勤職員6名を配置した。平成27年2月の新規グループホーム「ハウスMuu」開所に伴い生活介護事業「アイテック」から通所者1名を受け入れた。「東やまたレジデンス」利用者が新規グループホーム「ハウスLm」に移行したため新規の入居者のうち1名を平成27年5月からの受入れ準備を行った。

2 事業実績

(1)生活介護事業(定員38名・現員39名)

①利用者概況(平成27年3月31日現在)

(7)障害支援区分状況

障害支援区分	非該当	1	2	3	4	5	6	合計	
療育手帳A1	男	0	0	0	0	0	6	7	13
	女	0	0	0	0	0	1	0	1
療育手帳A2	男	0	0	0	0	3	10	4	17
	女	0	0	0	0	0	1	1	2
療育手帳B1	男	0	0	0	0	1	2	1	4
	女	0	0	0	0	0	0	1	1
療育手帳B2	男	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	1	0	0	1
合計	男	0	0	0	0	4	18	12	34
	女	0	0	0	0	1	2	2	5

(イ)年齢別状況

	～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50歳～	計	平均
男性	0	6	10	16	2	34	38.9歳
女性	0	0	2	3	0	5	41.8歳
計	0	6	12	19	2	39	39.2歳

(ウ)利用期間状況

	～1年	1～3年	3～5年	5～10年	10～15年	15年～	計	平均利用期間
男性	1	4	1	9	10	9	34	11年 5か月
女性	0	0	0	3	0	2	5	11年10か月
計	1	4	1	12	10	11	39	11年 6か月

(エ)長期入院等状況

状 況	人数
1か月以上3か月未満の継続入院者	0
3か月以上の継続入院者	0
1か月以上3か月未満の継続帰宅者	0
3か月以上の継続帰宅者	0

(オ)利用方法状況

自 力	8
保護者送迎	7
送迎バス	6
そ の 他	18
計	39

(カ)利用日数状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要通所日数	21	20	21	22	16	20	22	18	19	19	19	22
平均通所日数	20	19	20	21	15	19	21	17	18	17	18	21

(キ)入退所状況

入所者	入所日	居住区	備 考
43歳(男性)	H27. 3. 2	鶴見区	「ハウスMuu」入居のための通所利用
退所者	退所日	居住区	備 考
37歳(女性)	H27. 3. 31	緑区	「東やまたレジデンス」へ移行利用

(2)短期入所事業(定数: 1名)

①利用状況(宿泊のべ日数)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
24	21	26	22	21	21	28	21	20	21	23	23	271

②障害支援区分状況(実数)

区分	1	2	3	4	5	6	合計
男性	0	0	0	3	9	7	19
女性	0	0	0	0	0	0	0

③年齢別状況(実数)

年齢	～19	20～29	30～39	40～	合計
男性	0	11	3	5	19
女性	0	0	0	0	0

(3)日中一時支援事業(定数: 1名) のべ0日 実数0人

3 支援状況

①支援の骨子

個別支援計画に基づき作業活動を中心とした日中支援を実施した。

②日中支援

作業活動は6社からの受注作業を中心とし、洗濯や室内清掃等の他に地域のスポーツ会館における清掃ボランティアを始めた。

③余暇支援

宿泊旅行(3グループ)と平日レク(近隣での余暇活動・計5回)を提供した。

④生活支援

グループホームや家庭と生活全般についての情報交換や状態像を共有化した。定期健康診断、通院同行、嘱託医(精神科・内科)の医療相談を行うとともに、インフルエンザ等の感染症予防のため手洗い、うがいを励行し習慣化に努めた。

⑤短期入所

職員間で引き継ぎを行い安定したサービスを提供した。

⑥実習受入れ、関係機関連携ほか

養護学校生徒(1名)および福祉系大学生(1名)の実習、関係機関からの見学研修を受け入れた。職員研修は外部機関研修および法人主催の自閉症基礎セミナーを受講した。

施設2課(東やまたレジデンス)

1 事業概況

生活介護(定員50名)、施設入所支援(定員40名)、短期入所(定員4名)、日中一時支援(定員2名)を提供した。体制は管理職以下3係制とし、各係に9名の職員と看護師1名により運営した。職員は日中活動支援と居住支援の役割を分担をしてサービス提供した。地域移行担当主任を配置してグループホームへの移行準備を行い、利用者5名が新設グループホームに移行した。これに伴い5名の新規利用者を決定した。Aユニットを強度行動障害対応ユニットに切り替えるための改築工事を行い、体制強化として職員の増員を計画したが補充ができず、実施時期を延期した。居室の再編成、居住ユニット機能の整理(地域移行ユニットや同性ユニットなど)、短期入所枠の拡大等の検討準備を進めた。社会福祉士

受験資格や教員免許取得等の学生実習、特別支援学校の生徒実習、他施設・機関からの実習、見学希望も増加した。自閉症協会主催の「発達障害支援者スーパーバイズ養成研修」を受託し、5日間の研修カリキュラム(3回)を実施した。安全管理委員会を開催し事故の予防や衛生管理、健康管理等の改善を行った。

2 事業実績

(1) 生活介護事業(定員:50名・現員53名)

①利用者概況(平成27年3月31日現在)

(ア)障害支援区分状況

障害支援区分		非該当	1	2	3	4	5	6	合計
療育手帳A1	男	0	0	0	0	0	6	32	38
	女	0	0	0	0	0	0	5	5
療育手帳A2	男	0	0	0	0	2	1	4	7
	女	0	0	0	0	0	0	1	1
療育手帳B1	男	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0
療育手帳B2	男	0	0	0	0	0	0	1	1
	女	0	0	0	0	0	0	1	1
合計	男	0	0	0	0	2	7	37	46
	女	0	0	0	0	0	0	7	7

(イ)年齢別状況

	～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50歳～	計	平均
男性	0	4	12	28	2	46	40.8歳
女性	0	1	2	3	1	7	41.5歳
計	0	5	14	31	3	53	40.9歳

(ウ)利用期間状況

	～1年	1～3年	3～5年	5～10年	10～15年	15年～	計	平均利用期間
男性	0	4	1	4	6	31	46	15年10か月
女性	0	0	1	7	0	3	7	11年4か月
計	0	4	2	3	6	34	53	15年2か月

(エ)長期入院等状況

状 況	人 数
1か月以上3か月未満の継続入院者	0
3か月以上の継続入院者	0
1か月以上3か月未満の継続帰宅者	0
3か月以上の継続帰宅者	0

(オ)利用方法状況

自 力	0
保護者送迎	11
送迎バス	2
そ の 他	40
計	53

(カ)利用日数状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要通所日数	22	22	22	23	18	22	23	20	21	21	21	23
平均通所日数	21	20	21	22	17	21	22	19	19	19	19	22

(キ)入退所状況

入退所者なし

②支援状況

係ごとに日中担当の職員を配置して3作業エリアが安定して運営ができるように配慮した。新設グループホームに移行する利用者の生活をグループホーム職員と連携して行った。日中活動として自動車部品梱包作業、空缶リサイクル作業を継続し、近隣のスポーツ会館の清掃活動に参加した。過ごし方がわからない利用者には作業教材を使用して自立的な生活ができるよう支援した。作業エリアの環境を定期的に見直し、わ

かりやすい配置やレイアウトを整理した。休憩の過ごし方、余暇活動の開発、軽運動、宿泊旅行も継続した。

(2) 施設入所支援(定員:40名・現員35名)

①利用者概況(平成27年3月31日現在)

(7) 障害支援区分状況

障害支援区分		非該当	1	2	3	4	5	6	合計
療育手帳A1	男	0	0	0	0	0	3	19	22
	女	0	0	0	0	0	0	4	4
療育手帳A2	男	0	0	0	0	1	1	2	4
	女	0	0	0	0	1	0	1	2
療育手帳B1	男	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0
療育手帳B2	男	0	0	0	0	0	0	1	1
	女	0	0	0	0	1	0	1	2
合計	男	0	0	0	0	1	4	22	27
	女	0	0	0	0	2	0	6	8

(イ) 年齢別状況

	～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50歳～	計	平均
男性	0	1	8	17	1	27	41.4歳
女性	0	0	3	4	1	8	43.3歳
計	0	1	11	21	2	35	41.9歳

(ウ) 利用期間状況

	～1年	1～3年	3～5年	5～10年	10～15年	15年～	計	平均利用期間
男性	0	1	0	0	3	23	27	17年 6か月
女性	0	1	1	0	0	6	8	14年 7か月
計	0	2	1	0	3	29	35	16年 10か月

(エ) 長期入院等状況

状 況	人 数
1か月以上3か月未満の継続入院者	0
3か月以上の継続入院者	0
1か月以上3か月未満の継続帰宅者	0
3か月以上の継続帰宅者	0

(オ) 入退所状況

退所者	退所日	居住区	備 考
44歳(男性)	H27. 2. 28	港北	「ハウスLm」入居
42歳(男性)	H27. 2. 28	泉	「ハウスLm」入居
44歳(男性)	H27. 2. 28	瀬谷	「ハウスLm」入居
43歳(男性)	H27. 2. 28	磯子	「ハウスLm」入居
39歳(男性)	H27. 2. 28	南	「ハウスLm」入居

入所者なし

②短期入所事業(定数:4名)

(7) 利用状況(宿泊延べ日数)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
122	124	126	150	49	155	153	152	117	121	114	115	1,498

(イ) 障害支援区分状況(実数)

区分	1	2	3	4	5	6	合計
男性	0	0	2	4	18	19	43
女性	0	0	0	1	2	2	5

(ウ) 年齢別状況(実数)

年齢	～19	20～29	30～39	40～	合計
男性	3	18	15	7	43
女性	0	2	2	1	5

③日中一時支援事業(定数：2名) のべ26.75日 実数36人

④支援状況

居住生活を中心とした生活支援を実施した。地域移行担当主任を中心に重度の障害がある入居者が地域で生活が営める仕組み作りを検討し、新設グループホーム移行準備を行った。強度行動障害支援対応ユニットであるAユニットの支援体制を検討した。グループホームへの移行に伴い5名の新規入居者を決定した。入居者の加齢に伴い健康管理、感染症予防などに対応した通院等が増加した。体力作りとして軽運動などを実施し、運動メニューの充実も必要となってきた。職員研修として歯科医による口腔ケア研修を実施した。

外出機会の提供や宿泊旅行の実施、休日の余暇活動を開拓した。

地域支援課

1 事業概況

「まろんワークス」および「アイテック」から利用者3名が新設グループホームに入居した。うち1名は平成27年3月に法人内の他事業所に移籍したため「アイテック」は1名の欠員となった。職員の産休、異動に伴い業務内容の調整を行った。「YOU」は利用者1名が他法人の通所事業所利用のため退所した。トイレ改修工事を行い生活環境の改善をはかった。

2 事業実績

「まろんワークス」

生活介護事業(定員24名・現員26名)

(1)利用者概況(平成27年3月31日現在)

①障害支援区分状況

障害支援区分	非該当	1	2	3	4	5	6	合計	
療育手帳 A 1	男	0	0	0	0	1	2	2	5
	女	0	0	0	0	0	0	1	1
療育手帳 A 2	男	0	0	0	0	4	8	2	13
	女	0	0	0	0	2	0	0	2
療育手帳 B 1	男	0	0	0	1	0	1	0	2
	女	0	0	0	0	1	0	0	1
療育手帳 B 2	男	0	0	0	0	1	0	0	2
	女	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	男	0	0	0	1	6	11	4	22
	女	0	0	0	0	3	0	1	4

②年齢別状況

	～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50歳～	計	平均
男性	0	8	4	10	0	22	36.6歳
女性	0	0	1	3	0	4	41.4歳
計	0	8	5	13	0	26	37.10歳

③利用期間状況

『まろんワークス』

	～1年	1～3年	3～5年	5～10年	10～15年	15年～	計	平均入所期間
男	0	1	1	4	5	0	11	9年1か月
女	0	0	0	0	2	0	2	12年11か月
計	0	1	1	4	7	0	13	9年8か月

『YOU』

	～1年	1～3年	3～5年	5～10年	10～15年	15年～	計	平均入所期間
男	0	0	1	4	6	0	11	10年10か月
女	0	0	0	0	2	0	2	13年 5か月
計	0	0	1	4	8	0	13	11年 3か月

④長期入院等状況

状 況	人 数
1か月以上3か月未満の継続入院者	0
3か月以上の継続入院者	0
1か月以上3か月未満の継続帰宅者	0
3か月以上の継続帰宅者	0

⑤利用方法状況

自 力	14
保護者送迎	7
送迎バス	0
そ の 他	5
計	26

⑥利用日数状況

『まろんワークス』

	4月	5月	6月	7月	8月	9月		
要通所日数	21	20	21	22	16	21		
平均通所日数	21.0	20.0	21.0	22.0	16.0	20.0		
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
要通所日数	23	19	19	19	19	22	242	20.2
平均通所日数	21.3	17.9	18.3	18.8	18.8	21.8	236.9	19.7

『YOU』

	4月	5月	6月	7月	8月	9月		
要通所日数	21	20	21	22	16	21		
平均通所日数	20.5	18.8	19.9	19.9	13.9	18.7		
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
要通所日数	23	19	19	19	19	22	242	20.2
平均通所日数	18.5	16.3	16.3	17.1	16.5	19.9	216.3	18.0

⑦入退所状況

『YOU』

退所者	退所日	居住区	備 考
23歳(男性)	H26.4	泉区	他法人のグループホームおよび通所施設利用のため

(2) 支援状況

①日中活動および作業内容

プラスチック製蓋の商品名シール貼り、文房具組立・包装、自動車部品の組立等の請負作業を行った。7月から情報誌の発行日が変わり隔週から毎週配布になった。都筑区受託のクリーンタウン横浜事業センター北清掃業務を継続した。

②生活状況

外食や公共交通機関の利用など地域資源を積極的に活用する機会を設けた。居宅介護サービスや移動支援サービスの利用状況を把握し、調整を行った。他法人のグループホームと連携し利用者の支援について検討した。健康診断、体重測定など健康管理を行った。

③その他

日中活動の様子は連絡票や電話で伝達し、面談等で個別支援計画を確認した。「まろんワークス」「YOU」「アイテック」と共同で宿泊レクリエーションを実施した。特別支援学校生徒の実習を1名受け入れた。特別支援学校の保護者見学を随時受け入れた。新設グループホームへ2名が入居したため職員と保護者で情報を共有した。

(3) 日中一時支援事業(定数：2名) 利用実績：のべ26日 実数 4人

「リンク」(定員20名・現員18名)

生活介護事業(定員20名・現員18名)

(1)利用者概況(平成27年3月31日現在)

①障害支援区分状況

障害支援区分		非該当	1	2	3	4	5	6	合計
療育手帳 A1	男	0	0	0	0	1	1	0	2
	女	0	0	0	0	0	0	0	0
療育手帳 A2	男	0	0	0	0	3	1	0	4
	女	0	0	0	0	0	0	0	0
療育手帳 B1	男	0	0	0	1	3	2	1	7
	女	0	0	0	0	0	0	0	0
療育手帳 B2	男	0	0	0	2	1	1	0	4
	女	0	0	0	0	0	0	0	0
その他 (身体2級)	男	0	0	0	0	0	1	0	1
	女	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	男	0	0	0	3	8	6	1	18
	女	0	0	0	0	0	0	0	0

②年齢別状況

	～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50歳～	計	平均
男性	0	3	5	8	2	18	40.6歳
女性	0	0	0	0	0	0	—
計	0	3	5	8	2	18	40.6歳

③利用期間状況

『リンク』

	～1年	1～3年	3～5年	5～10年	10～15年	15年～	計	平均入所期間
男	0	9	0	0	0	0	9	1年 11か月
女	0	0	0	0	0	0	0	—
計	0	9	0	0	0	0	9	1年 11か月

『アイテック』

	～1年	1～3年	3～5年	5～10年	10～15年	15年～	計	平均入所期間
男	0	9	0	0	0	0	9	1年 11か月
女	0	0	0	0	0	0	0	—
計	0	9	0	0	0	0	9	1年 11か月

④長期入院等状況

状 況	人 数
1か月以上3か月未満の継続入院者	0
3か月以上の継続入院者	0
1か月以上3か月未満の継続帰宅者	0
3か月以上の継続帰宅者	0

⑤利用方法状況

自 力	14
保護者送迎	0
送迎バス	0
そ の 他	4
計	18

⑥利用日数状況

『リンク』

	4月	5月	6月	7月	8月	9月		
要通所日数	21	20	21	22	16	20		
平均通所日数	20.7	19.6	20.1	21.3	16.0	19.5		
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
要通所日数	22	19	19	19	19	22	240	20.0
平均通所日数	20.7	18.3	18.8	18.1	18.2	21.4	232.7	19.4

『アイテック』

	4月	5月	6月	7月	8月	9月		
要通所日数	21	20	21	22	16	21		
平均通所日数	18.5	17.4	19.0	20.1	14.6	17.9		
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
要通所日数	23	19	19	19	19	22	242	20.2
平均通所日数	19.4	16.4	17.2	16.5	17.1	19.6	213.7	17.8

⑦入退所状況

『アイテック』

退所者	退所日	居住区	備 考
43歳(男性)	H27.2.28	鶴見区	グループホーム入居に伴い東やまた工房へ異動

(2) 支援状況

①日中活動および作業内容

文房具類組立て・包装、プラスチック製品やバイク製品のシール貼り・包装、紙器製作、建築資材の組立、情報誌の折り込み・配布の受注作業を行った。2月から自動車部品の組立を再受注した。企業組合オリーブから清掃業務を請け負った。

②生活状況

利用者同士の相性や保護者の希望する活動に配慮し、宿泊レクリエーションを実施した。移動支援サービス利用者には、ガイドヘルパーとの情報交換を継続し、活動中の様子把握に努めた。健康診断を実施し、必要な利用者には再検査受診を勧めた。

③その他

高齢の保護者には必要に応じて家庭訪問を行った。7月に特別支援学校生徒(1名)の実習を受け入れた。見学も随時受け入れた。新設グループホーム入居に伴い通所先を変更した利用者については家族、移動支援事業所と連携し引継ぎを行った。

共同生活援助事業(北部グループホーム)

1 事業概況

平成27年3月に「ハウスLm」「ハウスMuu」を開所した。円滑な移行を行うため入所事業所、通所事業所の職員や家族と引継ぎを実施した。職員の異動に伴い主任3名が担当するホームの業務内容を調整した。調理器具、換気扇など生活環境の改善を行った。

2 事業実績

(1)利用者概況(平成27年3月31日現在)

事業所名	定数	障害支援区分						性別		年齢			
		1	2	3	4	5	6	男	女	20歳～	30歳～	40歳～	50歳～
ハウスBEE	5	0	0	0	0	3	2	5	0	0	0	4	1
ハウスSEA	4	0	0	1	1	2	0	4	0	0	0	3	1
ハウスDOUX	5	0	0	0	0	1	4	5	0	0	1	3	1
ハウスEEL	5	0	0	0	3	1	1	4	1	0	0	5	0
ハウスF	4	0	0	2	2	0	0	4	0	0	1	3	0
ハウスG	6	0	0	0	1	3	3	6	0	0	0	5	1
ハウスi	5	0	0	0	1	3	1	5	0	0	3	2	0
ハウスK	5	0	4	0	0	0	0	5	0	3	0	1	1
ハウスLm	5	0	0	0	0	3	2	5	0	0	1	4	0
ハウスMuu	5	0	0	0	0	3	2	5	0	2	1	2	0
合 計	49	0	4	3	8	19	14	48	1	5	7	32	5

(2) 支援状況

①ハウスB E E

週末希望の増加により職員配置を調整した。居宅介護サービスによるホームヘルパーを利用して週末、休日含めて安定的な運営を行った。

②ハウスS E A

ホーム全体の生活の流れを見直し、利用者のスケジュールを調整した。運動量が少ない利用者には運動器具を導入し体力の維持に努めた。

③ハウスD O U X

週末利用の増加により職員配置を調整し、休日の過ごし方の組み立てを行った。下半期後半に職員異動があったため引き継ぎと支援体制の整備に努めた。

④ハウスE E L

ホームヘルパーを導入し週末利用の対応職員を増員した。利用者の年齢や体力に合わせて外出活動の内容を調整した。

⑤ハウスF

家庭状況に配慮し、後見人の申し立てや金銭管理の支援を行った。生活上の相談や職業場面での報告を適時受け、家族、ケースワーカー、医療機関や就労支援課と連携して支援した。

⑥ハウスG

週末希望の増加により1月から居宅介護サービスの利用を開始し、ホームヘルパーの充足に努めた。直腸脱治療再手術を行った利用者に対して家族や医療機関と連携を図り、個別の配慮を行った。

⑦ハウスi

個別のニーズに対応するため11月から週末の居宅介護サービスの利用を開始した。その後、段階的に他の利用者へのサービス提供を開始し、平日を含めて安定した運用となった。

⑧ハウスK

金銭管理や健康管理など各利用者の状況に応じて支援した。下半期には後見人が付いた利用者に対し、後見人との面談を定期的を実施した。ホーム全体のレクリエーション活動として外食やボウリングを実施した。

⑨ハウスL m

「東やまたレジデンス」利用者5名の移行型ホームとして平成27年3月1日開所した。「東やまたレジデンス」職員と連携し、円滑な運営に努めた。法人のマイクロバスによる送迎を行った。

⑩ハウスM u u

週末帰宅型のグループホームとして平成27年3月2日に開所した。利用者5名のうち1名は単独通所支援を行った。マイクロバスによる送迎を行った。

ヘルパーセンターやまびこ

1 事業概況

介護給付事業として居宅介護、行動援護を実施し、地域生活支援事業として移動支援を実施した。移動支援から行動援護への切り替えを積極的に行った結果、移動支援は前年度比463,310円(413時間)の減となり、行動援護は8,089,138円(1,796時間)の増加となった。利用ニーズに応えるため7月と1月に行動援護従業者養成講座、9月にガイドヘルパー養成講座を実施した。他の事業者からの依頼により行動援護従業者養成講座のコーディネートおよび講師派遣を行った。

2 事業実績

(1) 派遣件数、事業収入等

	移動支援	行動援護	居宅介護
利用件数(GH数)	1,734件	1,742件	7件(BEE、SEA、DOUX、EEL、G、i、JOY)
在籍ヘルパー	75名	30名	11名
稼働時間	5,118.5時間	5,187.0時間	3,955.6時間
支援費収入	14,081,050円	28,825,124円	23,456,919円
収入計	42,906,174円		23,456,919円

合計：66,363,093円

(2) 事業の傾向

移動支援、行動援護は社会生活上必要な外出(買物等)が多数を占めた。家庭の事情によるレスパイトニーズが増加した。居宅介護は、グループホーム利用者に対する支給決定は十分に行われたが、ヘルパーが不足した(11名)。

(3) 養成研修事業

①移動支援ガイドヘルパー養成講座(1回) 受講者:18名

②行動援護従業者養成研修(2回) 受講生:30名

③外部派遣研修

川崎市行動援護従業者養成研修(講師3名・ファシリテーター1名)

川崎市行動援護スキルアップ研修(講師3名)

翔の会行動援護従業者養成研修(講師3名・ファシリテーター1名)

(4) ヘルパー会議等

勉強会5回「親として」「権利擁護」「事例検討」「が'ト'ヘルプ' 演習」「自閉症について」

事業第1部苦情解決事業：2件

施設1課「東やまた工房」

女性利用者のご家族から「必要性がないため身体確認はやめて欲しい」との訴えがあった。平成16年度頃、他の利用者からの他害、原因不明の怪我や痣などが数回続いたことを受け、原因究明のために定期的な身体確認を実施してきた経緯があった。身体確認は看護師と同性の職員が別室にて実施していたが、保護者にとっては必要性を感じていないこと、本人が意思表示できないにもかかわらず保護者の意思を確認せずに実施していることに対する苦情であった。過去の情報や記録を確認し、説明を行い行った。保護者の確認を得ずに実施していたこと、ここ数年は他害や原因不明の怪我などが生じておらず必要性がなくなっていること、にもかかわらず慣習的に必要性の確認を怠ってきたこと等について謝罪し、身体確認を即時終了した。保護者の希望により第三者委員へ書面にて報告した。このことで保護者から了解を得ることができ、事態は収束した。

施設2課「東やまたレジデンス」

正式な苦情としての申し出ではなかったが、ユニットでの施錠対応について保護者の了解が不十分であったため説明し了解を得た。具体的には女性対応ユニットでの男性利用者であるため、不調時に他害行為や強度の執着などにより、職員の怪我や他の利用者への影響が大きく夜間の施錠を実施した。しかし、電話での説明が不十分で保護者に正確に伝わっていないことが個別支援プログラムの説明面談で明らかになった。本人の状態の伝達と一時施錠のルール化を明確にし、施錠時には記録と定期的な保護者への報告を行った。平成26年8月から男性職員対応ユニットに移行し、9月以降は施錠せずに支援を行っている。

地域課「ヘルパーセンターやまびこ」

平成27年2月、ガイド実施中に利用者が電車内で嘔吐し、吐しゃ物が女性の乗客の衣服にかかってしまう事故が発生した。被害を受けた女性の家族からヘルパーの対応が不適切であり、直接謝罪をしてほしいとの苦情が寄せられた。法人は管理部長が謝罪をし、事業所とヘルパーの謝罪文の提出、および今後の対応(会議での周知、研修の実施、マニュアルの改訂等)について提案し、被害者方に上記の文書を郵送した。このことで、苦情対応については被害者家族の了解を得ることができた。

事業第2部

施設支援3課(ポルト能見台)

1 事業概況

生活介護事業(定員50名)、短期入所事業(定員1名)、日中一時支援事業(定員2名)の障害福祉サービスを提供した。生活介護の利用者は合計57名であった。

2 事業実績

(1)生活介護事業(定員50名・現員57名)

①利用者概況(平成27年3月31日現在)

(ア)障害支援区分状況

障害支援区分		非該当	1	2	3	4	5	6	合計
療育手帳 A1	男	0	0	0	0	2	5	11	18
	女	0	0	0	0	0	0	1	1
療育手帳 A2	男	0	0	0	0	5	17	8	30
	女	0	0	0	0	0	1	1	2
療育手帳 B1	男	0	0	0	2	1	1	0	4
	女	0	0	0	0	0	0	0	0
療育手帳 B2	男	0	0	0	0	1	1	0	2
	女	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	男	0	0	0	2	9	24	19	54
	女	0	0	0	0	0	1	2	3

(イ)年齢別状況

年齢	～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50歳～	計	平均
男性	0	24	18	11	1	54	33歳4か月
女性	0	1	1	1	0	3	34歳3か月
計	0	25	19	12	1	57	33歳4か月

(ウ)利用期間状況

年	～1年	1～3年	3～5年	5～10年	10～15年	15年～	計	平均利用期間
男	0	3	2	16	33	0	54	9年6ヶ月
女	0	0	0	1	2	0	3	9年7ヶ月
計	0	3	2	17	35	0	57	9年6ヶ月

(エ)長期入院等状況

状況	人数
1か月以上3か月未満の継続入院者	0
3か月以上の継続入院者	1
1か月以上3か月未満の継続帰宅者	0
3か月以上の継続帰宅者	0

(オ)利用方法状況

自力	18
保護者送迎	22
送迎バス	14
その他	3
計	57

(カ)利用日数状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月		
要通所日数	21	20	21	22	16	21		
平均通所日数	19.4	18.1	19.5	20.1	13.1	18.1		
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
要通所日数	24	19	19	19	19	22	243	20.2
平均通所日数	19.2	16.7	17.4	16.7	17.3	20.1	217.2	18.1

(キ)入退所

退所者	退所日	居住区	備 考
女性(39歳)	5月31日	金沢区	他法人の入所施設利用のため

(2)短期入所事業(定数:1名)

①利用状況(宿泊延べ日数)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
8	13	17	20	14	22	25	15	17	12	12	27	202日

②障害支援区分状況(実数)

区分	1	2	3	4	5	6	合計
男性	0	0	0	2	10	11	23
女性	0	0	0	0	0	0	0

③年齢別状況(実数)

年齢	～19	20～29	30～39	40～	計
男性	0	13	7	3	23
女性	0	0	0	0	0

(3)日中一時支援事業(定数:2名) 利用者数11人 利用実績49.8日

3 支援および運営状況

(1)体制

施設長(管理者・サービス管理責任者兼務)、係長2名、主任3名、専門職として看護師(非常勤)、栄養士を配置した。事務は2名(正職員1名、非常勤1名)配置した。支援体制は2エリア(1エリアに2グループ)に分け、各グループに支援員(正職員2、3名・非常勤1、2名)を配置して支援にあたった。グループホーム「ハウスヒルサイド」「ハウスJOY」の宿直業務や時間帯に応じた後方支援を週1、2回行った。

(2)支援方針および内容

個別支援計画を策定し半期に1回支援の見直しを行った。利用者を取りまく家族や地域資源、医療機関との協力・連携に務めた。

(3)日中支援

個々の利用者の特性に応じた作業環境や日課を提供し、受注作業を中心に自立的に活動が遂行ができるよう支援した。安定した通所や生活リズムを整えるため家庭と協力して支援を進めた。受注作業は、組立(自動車部品・電気スイッチ部品)、梱包(食膳セット・菓子等)作業等の他に近隣の流通関係会社に出向き職業的活動を継続した。区土木事務所からの公園清掃委託業務も継続した。

(4)余暇支援

カラオケ(年3回)、プール(年6回)、宿泊旅行(年5回)など利用者が安心して余暇活動を楽しめる余暇を提供した。

(5)短期入所・日中一時支援サービス支援

サービス提供日以外の希望に対しては入所事業所の利用を勧奨した。保護者の高齢化に伴い短期入所の利用実績は増加傾向にある。

(6)地域生活支援

グループホーム「ハウスヒルサイド」「ハウスJOY」への車輛送迎を行った。通所途上の付き添いや定期的な状況把握を行った。家庭生活や週末および通所の移動に困難をきたしている利用者や家族に対して入所事業所の短期サービス、移動支援サービスの利用調整を行った。

(7) 運営関係(教育・学生実習・啓発活動等)

日常業務における現任訓練、嘱託医や臨床心理士による専門研修、新任研修、外部派遣研修を行った。神奈川県自閉症児者親の会主催の自閉症療育者トレーニングセミナーの公開講座に参加した。現場実習として特別支援学校高等部生徒(2名)、福祉系大学生(2名)、施設職員(1名)を受け入れた。特別支援学校教員および保護者、施設職員、当事者団体、地域関係者の見学を受け入れた。福祉系専門学校等の授業講師や他事業所への講師として職員を派遣した。

共同生活援護事業「ハウスヒルサイド」「ハウスJOY」

1 事業概況

「ハウスヒルサイド」は管理者(サービス管理責任者兼務)、係長(ポルト能見台兼務)、支援員(正職員1名、非常勤3名)を配置した。また、「ハウスJOY」兼務の主任を配置し、グループホーム間での連携を密に行った。日中活動は全員が「ポルト能見台」を利用した。

2 事業実績

(1) 利用者概況(平成27年3月31日現在)

〈ヒルサイド〉定員5名

①障害支援区分別状況

	1	2	3	4	5	6	合計
男	0	0	1	0	2	2	5
女	0	0	0	0	0	0	0

②年齢別状況

	20歳～	30歳～	40歳～	50歳～	合計
男	0	0	4	1	5
女	0	0	0	0	0

〈ハウスJOY〉定員5名

①障害支援区分別状況

	1	2	3	4	5	6	合計
男	0	0	0	0	5	0	5
女	0	0	0	0	0	0	0

②年齢別状況

	20歳～	30歳～	40歳～	50歳～	合計
男	0	2	3	0	5
女	0	0	0	0	0

3 支援および運営状況

利用者が安心して健康的に暮らせる生活環境作りを心がけた。夕食を地域のレストラン等でとる、日用品の買い物に出かけるなど活動の幅を広げた。日中活動を利用するため公共交通機関の利用支援を行った。宿泊レクは「ポルト能見台」と連携して1泊旅行を実施した。支援体制の変更に伴い、非常勤職員の配置を随時進めた。

事業第2部 苦情解決事業：0件

事業第3部

相談課

横浜市発達障害者支援センター

1 事業概況

発達障害者支援センター事業はセンター長含めて相談員8名(社会福祉士、臨床心理士)を配置し、相談支援、就労相談、機関コンサルテーション、機関連携を実施した。発達障害者自立生活アシスタント事業は職員2名を置き、自立生活の支援を行った。

平成26年度は苦情が5件発生した。苦情の経過や関係機関等との情報を精査すると、利用者の障害特性からくる物事の捉え方の偏りが苦情や要望の背景に潜んでいることが明らかになった。相談支援機関としてこうしたことを真摯に受け止め、職業倫理の徹底、職員の資質向上に一層努めた。

2 事業実績

(1) 相談支援

平成26年度は特定相談実施による業務量の増加により、新規相談者の受入を調整したため全体として件数は減少した。

①実支援件数：570名(前年度658名)

新規：210名(前年度287名) 男性145名・女性65名 住所：市内208名・市外2名

継続：360名(前年度371名) のべ相談件数：5,709件(前年度5,795件)

②支援内容(実数は重複あり)

	支援内容	実人数(重複有)	のべ件数
相談支援	相 談	507人	3,945件
	調整会議	57人	77件
	機関コンサル	8人	19件
就労支援	相 談	169人	1764件
	調整会議	9人	10件
	企業に対する啓発	0人	0件

③年齢内訳(実数)

16～18歳	12人
19～39歳	481人
40歳以上	76人
不 明	1人
合 計	570人

④特定相談

平成25年度から各区において発達障害者の相談支援システムを構築するため特定相談を実施してきたが、平成26年度は3区(港北区、瀬谷区、戸塚区)にとどまった。

(2) 広報啓発・機関連携

①研修事業

研修種別	回 数	参加人数
センター主催※	4回	128人
外部からの講師依頼(見学対応含む)	13回	288人
地域住民向け講演会の開催	2回	84人
企業等に対する啓発	0回	0人

※発達障害者相談基礎研修(2日間・2回)、応用研修(2日間・1回)、医療セミナー(1日間・1回)

②広報事業

『マンスリーやまた』発行(5月号・7月号・9月号・11月号・1月号・3月号)

③機関連携

会議出席(連絡会議等) 150件

(3) 発達障害者自立生活アシスタント事業

登録者：13名(男性8名、女性5名)

未登録相談ケース：4名(男性2名、女性2名)

登録者生活状況：単身9名、障害者のみ家庭0名、家族同居(単身準備)4名

①支援方法

	登 録	未登録
面接(来所)	87件	11件
電話・メール・FAX	280件	27件
訪問	83件	8件
外出付き添い	55件	2件
合 計	505件	48件

②支援内容(重複あり)

	登 録	未登録
心理・情緒	221件	39件
医療・健康	155件	16件
消費生活	176件	15件
就労	115件	14件
衣食住	226件	31件
対人関係の調整	72件	10件
制度	119件	6件
関係機関との連携	146件	20件

学齢後期発達相談室「くらす」

1 事業概況

室長を含めて職員5名(社会福祉士、臨床心理士)を配置し、発達障害のある(疑いを含む)中高生の相談支援を行った。移行期支援として小学6年生の中学校入学にあたっての相談も実施した。関係機関の訪問、連絡会議等への出席、見学受け入れ、高校説明会への参加等を行い、情報収集やネットワーク構築に努めた。

2 事業実績(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(1) 相談支援

新規110件(男79、女31) 継続40件(男31、女9)

終結17件(対象年齢超過のため3月末で終結)

①年齢構成(実人数)

小学生	中1	中2	中3	高1	高2	高3	合計
6	34	20	28	22	25	15	150

②相談方法(のべ件数)

相談方法	件数
来所	622
訪問	39
電話(インテーク相談以降)	542
その他(FAX、メール等)	18
合計	1,221

③相談対象者(のべ件数)

対象者	件数
本人	267
家族	697
教職員	102
関係機関職員	227
その他	1

④相談内容(のべ件数・主訴を1つカウント)

相談内容	件数
家庭での対応	399
学校・通所先での対応	162
不適応行動への対応	36
感情コントロール	39
不眠・情緒面等への医療調整	15
不登校・ひきこもり	45
進路	386
退院後の生活	15
放課後・余暇活動	41
その他	83
合計	1,221

(2) グループ活動等

中学生対象グループ活動2回 高校生対象グループ活動9回 保護者勉強会1回

3 機関連携

①ケース会議 30回

②グループ活動支援(横浜市青少年相談センター) 7回

③自立支援協議会・連絡会議等への参加 27件

④外部講師依頼 9件

⑤事業説明訪問・見学対応 34機関

就労支援課

ワークアシスト

1 事業概況

管理者、サービス管理責任者、就労支援員、職業指導員、生活指導員、グループ就労訓練担当者を配置した。職業基礎訓練は作業エリアでパソコン操作訓練、名刺作成の模擬訓

練、対人コミュニケーション技能、職業人ルール等の社会生活技能学習を少人数グループで実施した。実践的な職業訓練として「神奈川ゆめコープ横浜北センター(グループ就労訓練請負型助成金)」「DHLサプライチェーン・富士通SPL事業部」の事業所において行った。障害者雇用サポートは神奈川ゆめコープ「宮前センター」「横浜北センター」に従事する障害従業員(3名)の業務支援を行った。第1号職場適応援助者(ジョブコーチ)と連携して新規の就労支援とを実施し、支援終了後のフォローアップ対象者を日吉就労支援センターに登録した。見学を適宜受け入れ、希望者に対して月2回の体験実習を実施した。

2 事業実績

(1) 就労移行支援事業(定員20名・現員13名)

①利用者状況・在籍 13名(平成27年3月31日時点)

(ア) 障害支援 ※うち1名はB2手帳も重複所持

障害支援	B1	B2	精1	精2	精3	計
男性	0	3	0	4	3	10
女性	0	2	0	1	0	3
合計	0	5	0	4	3※	13

(イ) 年齢

年齢	～19	20～	30～	40～	合計
男性	0	7	2	0	9
女性	1	1	2	0	4
合計	1	8	4	0	13

(ウ) 新規利用者 7名(年齢は利用開始時点)

	入所者	居住区	入所日	障害の種類
1	18歳(女性)	都筑	H26. 4. 7	高機能自閉症
2	22歳(男性)	港北	H26. 4. 7	アスペルガー症候群
3	25歳(男性)	都筑	H26. 4. 8	広汎性発達障害
4	32歳(男性)	港南	H26. 8. 4	広汎性発達障害
5	25歳(女性)	磯子	H26. 10. 1	アスペルガー症候群
6	37歳(男性)	青葉	H26. 11. 4	アスペルガー症候群
7	39歳(女性)	港南	H26. 11. 25	ADHD

(エ) 退所状況 8名(退所時年齢)

	退所者	居住区	退所日	理由
1	33歳(男性)	港南	H26. 6. 8	企業就労
2	28歳(男性)	神奈川	H26. 8. 7	精神的不調により訓練参加が困難
3	29歳(男性)	港北	H26. 9. 30	企業就労
4	37歳(男性)	青葉	H26. 12. 31	企業就労
5	28歳(男性)	港北	H27. 1. 5	企業就労
6	30歳(男性)	中	H27. 1. 19	企業就労
7	23歳(女性)	都筑	H27. 2. 2	企業就労
8	19歳(男性)	港北	H27. 3. 23	就職困難のため地域活動センターへ移行

3 グループ就労訓練事業

訓練生状況

	性別	障害の種類	訓練期間	現況
1	男性	広汎性発達障害・精神2級	H26. 1. 6～	訓練利用継続中
2	男性	ADHD・精神3級	H26. 2. 3～H27. 1. 19	企業就労
3	女性	知的障害・療育B2	H26. 3. 10～	訓練利用継続中
4	男性	知的障害・療育B2	H26. 8. 20～	訓練利用継続中
5	男性	アスペルガー精神3級/療育B2	H27. 2. 2～	訓練利用継続中

4 見学・体験実習参加者

	対 象	内 容	人 数
1	家族	施設見学	4名
2	学校・関係機関	施設見学	9名
3	当事者	施設見学	8名
4	体験実習参加(3～5日)	訓練体験参加	8名

横浜日吉就労支援センター

1 事業概況

障害者就労支援センター事業と職場適応援助者助成金(ジョブコーチ)事業を実施した。センター長、就労相談員4名、職場適応援助者1名を配置した。相談対応は就労を希望する障害者やその家族、関係者に対して就職までの流れや就職後に必要な支援を見極め、支援の方向性や支援計画を提案した。雇入れを計画する企業に対して雇用管理に関する相談や雇入れ支援を行った。インテーク面談を2名対応とし、初期段階アセスメントを客観的な情報について効率よく収集するように努めた。就労支援は登録者に対し職業評価、職場開拓、定着支援を行った。職務開発や環境調整、就職直後の集中支援等、きめ細かい支援が必要な登録者に対して職場適応援助者助成金(ジョブコーチ)事業と連携して支援を行った。職業評価・職場実習は登録者に対して職業興味関心検査、一般職業適性検査、ワークサンプル、職場実習などを実施し、職業イメージや労働に関する価値観、作業能力、社会的スキルの状況を把握し、職業選択の支援を行った。職場開拓は労働局、ハローワーク、障害者職業センター等からの雇用率未達成企業への支援依頼に応じ、多くの企業情報にあたるように努めた。労働局やハローワークと連携して個々に応じた職場開拓や業種別の職場開拓を実施した。自立支援協議会、就労支援センター連絡会議、特別支援学校就労支援連絡会議等に参加し、教員、相談支援機関、就労系サービス事業所とのネットワーク構築に努めた。精神障害者の登録が増えていることから主治医やコメディカルスタッフと精神科医療機関との情報共有に努めた。

2 事業実績

(1) 対象者支援

① 相談支援件数

延べ支援件数 1,376件(就職に向けた支援571件、職場定着に向けた相談支援461件、日常生活・社会生活に関する相談支援179件、就業と生活両方の相談支援165件)

② 新規就職者数 17名(うち療育手帳所持者3名、精神障害者保健福祉手帳所持者15名、発達障害の診断のある者13名)

③ 離職者数 5名(うち精神障害者保健福祉手帳所持者5名)

④ 新規登録者数 35名(うち身体障害者手帳所持者2名、療育手帳所持者13名、精神障害者保健福祉手帳所持者20名、発達障害の診断のある者26名)

⑤ 登録者数 継続118名(求職支援38名、定着支援80名) 新規 35名(求職支援15名、定着支援20名)

(2) ジョブコーチ事業実績(平成27年3月31日時点)

① 第1号職場適応援助者稼働実績

担当者1名(稼働実績198日・平均稼働日数16.5日/月)

② 支援状況(重複あり)

新規支援7名 雇用後フォローアップ支援11名 事前支援6名

③ 支援事業所 11社(生協1 製造業2 小売業5 人材派遣業2 保険業1)

④ 支援内容 延べ支援件数220件(支援計画策定10件、集中支援88件、フォローアップ訪問82件、事前支援37件、ケース会議3件)

事業第3部苦情解決事業：6件

横浜市発達障害者支援センター：5件

- (1) 発達障害者支援センター責任者あてに平成25年度上半期まで相談していた利用者から、記録の扱いに関する苦情があり、10数回に及ぶ電話での対応となった。対応不備の謝罪、個人情報開示に関する説明を繰り返し行うが了解は得られず、横浜市の所管課とともに対応にあたり情報の取り扱いについては解決したが、電話対応は継続している。
- (2) 平成25年度上半期まで相談に来所していた利用者から横浜市福祉調整委員会に苦情申し立てがあった。内容は、昨年度発達障害者支援センターが紹介した事業所の利用に関するもので、当該事業所への不満に関するものだった。当事者および家族、区役所ケースワーカー、センター長で話し合いの場を設け、対応不備の謝罪を行ない了承を得た。しかし、平成27年1月に福祉調整委員会に電話があり、同様の内容の訴えがあった。委員会と情報共有し継続対応をしている。
- (3) かながわ福祉サービス運営適正化委員会に自立生活アシスタント事業の登録者から苦情申し立てがあった。センター相談員の態度への改善要望および相談や連絡方法等に関する要望だった。適正化委員会との話し合いを経て、対応を改善することで解決した。
- (4) 横浜市健康福祉局障害企画課に利用者家族から苦情の申し立てがあった。発達障害者支援センターの初回面談における相談員の対応についての不満だった。市企画課担当者から改善指導を受け、初回面談時の事前説明と了解のとり方を見直し、解決した。
- (5) 横浜市健康福祉局障害企画課に利用者から苦情の申し立てがあった。相談を希望してセンターに電話をしたが相談員の電話対応に不満であった。市企画課担当者からセンターに連絡が入り、センター長から折り返し利用者に連絡をとり謝罪と確認を行った結果、初回面談に繋がった。

横浜日吉就労支援センター1件

- (1) 一昨年度の相談者から横浜日吉就労支援センター責任者へ電話による苦情申し立てがあった。内容は、初回面談の際に自身に関する記録を目にしたことと、発達障害者支援センターからの申し送りの情報について嫌な気持ちになったというものであった。対応について謝罪し、本人の意向により登録解除の手続きを取った。

高齢福祉部門

横浜市本牧和田地域ケアプラザ

通所介護事業の1日平均利用者数は23.5名、目標(24名)にはとどかなかったが、前年度実績を上回った。居宅介護支援事業は1か月平均119件で、こちらも前年度実績を上回った。地域包括支援センターは「地域ケア会議」を年6回開催した。地域活動交流事業と共同で行っている介護予防事業は新たに屋外活動のプログラムを取り入れた。

1 通所介護事業・介護予防通所介護事業

①利用登録者：108名(平成27年3月31日現在) 男性42名 女性66名

介護度別内訳	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
人数(人)	3	9	18	39	23	9	7
比率(%)	2.8	8.3	16.7	36.1	21.3	8.3	6.5

②利用実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総数
稼働日数	30	31	30	31	31	30	30	30	28	28	25	31	358
介護 延べ数	587	624	625	654	631	652	657	674	621	594	587	678	7,584
	平均	19.6	20.1	20.8	21.1	20.4	21.7	21.9	22.5	22.2	21.2	21.9	21.2
予防 延べ数	77	79	77	74	71	63	71	63	64	61	61	75	836
	平均	2.6	2.5	2.6	2.4	2.3	2.1	2.4	2.1	2.3	2.2	2.4	2.3
1日平均	22.1	22.7	23.4	23.5	22.6	23.8	24.3	24.6	24.5	23.4	23.1	24.3	23.5

③利用終了者:40名

理由	死亡	入院・入所	その他
人数(人)	7	9	16

2 居宅介護支援事業

①契約者数:123名(平成27年3月31日現在)

介護度別内訳	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
人数(人)	0	0	28	44	22	18	11
比率(%)	0	0	22.8	35.8	17.9	14.6	8.9

②要介護認定調査実施件数:187件

3 介護予防支援事業

①契約者数:115件(平成27年3月31日現在) 内訳:要支援1 43名 要支援2 72名

4 地域包括支援センター

①相談・訪問実績 相談件数:467件 訪問実績:424件

②相談内容内訳

内容	相談	訪問
介護保険	329	310
介護予防	0	0
行政サービス	3	4
インフォーマルサービス	15	6
認知症	75	78
介護・医療(認知症以外)	217	216
施設入所・入院	15	1
日常生活課題	4	7
苦情	5	0
権利擁護(虐待含)	16	11
ケアマネ相談支援	147	80

③援助内容内訳

内容	相談	訪問
安否確認・状況把握	305	428
介護・保健等指導助言	136	213
介護保険・行政サービス申請受付	55	63
他機関との調整	197	276
情報提供(サービス・施設紹介等)	76	70
傾聴	57	9

④自主事業(包括的・継続的ケアマネジメント事業)

事業名	実施回数	対象者	参加人数	共催・協力
安心生活講座	4回	地域住民	126名	本牧原CP
認知症サポーター養成研修	4回	小中学生 介護保険事業所等	75名	麦田CP他
認知症介護者の集い	6回	家族介護者	47名	
「こころの健康」相談室	1回	地域住民	14名	中区生活支援センター

⑤地域ケア会議

隔月(年6回)開催。参加人数:個別ケース4回のべ126名、包括レベル2回のべ82名。

⑥介護予防普及強化事業(横浜市委託事業)

屋外活動の運動プログラムを8回、本牧元町南部町内会で3回、本牧三之谷町内会で2回、根岸町自治会で2回を実施した。

5 地域活動交流事業

①高齢者支援

事業名	実施回数	参加人数	内容
介護予防体操教室 「朗らか体操1・2・3」	19回	のべ380名	一般高齢者等を対象とした介護予防体操教室
楽笑サロン 「さつき会」	24回	のべ386名	一般高齢者等を対象とした、介護予防のためのレクリエーション活動。
認知症予防 学習交流 サロン「なごみ」	24回	のべ213名	従来の簡易計算や音読の他、臨床美術療法を取り入れた認知症予防教室。

②子育て支援

事業名	実施日	参加人数	内容
子育てサロン	12回	のべ143組	子育て中(未就園児)の母親同士の交流や子育てに関する情報提供。
目指せ!イクメンの星	5回	のべ6組	子育て中の父親と子どもと一緒に体を動かす遊びを通じて、父親同士の交流を図る。

③障害児者支援

事業名	実施日	参加人数	内容
障害児余暇支援事業	8月18日	児童4名 ボランティア12名	近隣小学校の個別支援学級児童養護施設と連携し、夏休みの余暇支援を実施。
ポレポレまつり	11月8日		障害者団体と地域住民との交流。実行委員として運営を支援。ボランティア活動を調整した。

④ボランティア育成・地域参加支援

事業名	実施回数	参加人数	内容
男の料理教室	4回	のべ35名	調理実習を通じてシニア世代男性の地域活動参加へのきっかけ作り。障害児余暇支援事業では参加者への昼食作りに協力。
ボランティア交流展	通年	のべ53人	ボランティア自身が活動内容の紹介や活動の感想をメッセージカードに書き館内に掲示。
ボランティア入門講座	7月5日	19名	障害についての理解を深め、夏休みの余暇支援等で活動。中区内6CP、区社協共催事業。

⑤支え合い活動支援

事業名	内容	
ふれあい収集活動	地域の単身高齢者等を対象とし、本牧中学校ボランティアクラブの協力により古紙回収の支援活動を実施。高齢者世帯2件に実施。	
世代間交流会	7月23日	間門小学校はまっ子ふれあいスクール(31名)と朗らか体操参加者(13名)がペタンクを通して交流。本牧中学校の生徒がボランティアで参加。
	10月8日	本牧中学校生徒(23名)と老人会合唱サークル(12名)が歌の発表やレクリエーションで交流。八聖殿郷土資料館の協力で郷土資料を使用。
エコキャップ収集	発展途上国の子どもへワクチンを寄贈するためのペットボトルのキャップ回収。回収実績:約314kg ワクチン約157人分	
東日本大震災復興支援 「使い捨てカイロを被災地へ贈る」の活動支援	石巻市女川町の仮設住宅へ未使用の使い捨てカイロを贈る活動を、住民主体で行っている団体の後方支援として、回収箱の設置、住民周知のための広報など行った。今年度にて終了。	

⑥その他

事業名	内容
地域団体の活動支援 (5ヶ所)	地区社協や町内会が行う食事会や茶話会、体操会等の活動支援。ケアプラザからの情報提供の他、個別相談の機会として活用。
福祉教育支援	近隣小中学校の福祉体験学習の企画、実施。 小学校(個別支援学級) 1校(2回) 中学校3校(5回)

⑦広報活動

- ・広報紙「ぼんぼこだより」 1回約1,600部発行(年4回)
ケアプラザからの情報提供だけではなく、地区社協の活動や地域情報を掲載。
- ・ホームページ 広報紙の他、自主事業の案内などを掲載。

6 運営協議会

- 第1回 平成26年6月11日 平成25年度事業報告
- 第2回 平成27年3月11日 平成27年度事業計画

横浜市本牧和田地域ケアプラザ苦情解決事業：0件

東山田地域ケアプラザ

通所介護事業は1日平均利用者数は17.3名、目標未達(目標18.3名)であった。地域包括支援センターは年間を通して保健師職欠員のまま運営を行った。

1 通所介護事業

①利用登録者：48名(平成27年3月31日現在) 男性17名 女性31名

介護度別内訳	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
人数(人)	4	2	9	14	9	6	4
比率(%)	8.3	4.2	18.8	29.1	18.8	12.5	8.3

②利用実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総数
稼働日数	26	27	25	27	26	26	26	25	24	24	24	26	306
介護延べ数	453	457	403	466	416	417	411	389	389	372	371	398	4,942
介護平均	17.4	16.9	16.1	17.3	16.0	16.0	15.8	15.6	16.2	15.5	15.5	15.3	16.1
予防延べ数	27	26	24	26	23	26	22	26	35	31	25	34	325
予防平均	1.0	1.0	1.0	1.0	0.9	1.0	0.8	1.0	1.5	1.3	1.0	1.3	1.1
1日平均	18.5	17.9	17.1	18.2	16.9	17.0	16.7	16.6	17.7	16.8	16.5	16.6	17.3

③利用終了者：23名

理由	死亡	入院・入所	その他
人数(人)	4	16	3

2 居宅介護支援事業

①契約者数：75名(平成27年3月31日現在)

介護度別内訳	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
人数(人)	0	0	19	31	14	8	3
比率(%)	—	—	25.3	41.3	18.7	10.7	4.0

②要介護認定調査実施件数：106件

3 介護予防支援事業

①契約者数：145件(平成27年3月31日現在) 内訳：要支援1・57名 要支援2・88名

4 地域包括支援センター

①相談・訪問実績 相談件数：439件 訪問実績：81件

②相談内容内訳

内容	相談	訪問
介護保険	609	135
介護予防	10	1
行政サービス	14	1
インフォーマルサービス	16	2
認知症	114	18
護・医療（認知症以外）	61	25
施設入所・入院	55	6
日常生活課題	127	53
苦情	1	0
権利擁護（虐待含）	29	7
ケアマネ相談支援	87	6

③援助内容内訳

内容	相談	訪問
安否確認・状況把握	666	163
介護・保健等指導助言	22	19
介護保険・行政サービス申請受付	38	39
他機関との調整	447	117
情報提供（サービス・施設紹介等）	437	139
傾聴	7	0

④自主事業（包括的・継続的ケアマネジメント事業）

事業名	実施回数	目的および内容
ケアマネ情報交換会（新栄CP共催）	3回実施 参加者55名	ケアマネジャーの資質向上、ネットワークの構築。医療連携（意見交換会の実施）等。
新任ケアマネジャー研修会（区内5包括、区共催）	1コース実施 7名参加	目的：新任ケアマネジャーのための情報提供 内容：講座（施設見学会含）の実施
ケアマネサロン	6回実施 参加者22名	ケアマネジャーのストレス軽減、情報交換、ネットワーク構築のため勉強会含むサロン開催

⑤自主事業（権利擁護事業）

事業名（自主事業）	実施回数	目的および内容
介護者のつどい	毎月（12回/年） 参加者総数52名	仲間づくり、ストレス解消、介護知識・技術の習得。茶話会、介護ミニ講座など。
権利擁護講座① 無料相談会	1回実施 参加者7名	成年後見制度の啓発普及のため行政書士による無料相談会。
権利擁護講座②	1回（参加者30名）	エンディングノート活用術の説明。
権利擁護講座③おまわりさんの安心講座	1回実施 参加者17名	警察との連携強化を目的に消費者被害、自転車の交通ルールの講習会。
高齢者虐待講座	1回実施 参加者82名	高齢者虐待の視点、関係機関の役割、支援者の関係づくり。専門職対象の研修会。
介護技術講座	2回実施 参加者9名	介護者の仲間づくり、介護知識・技術の習得のため専門職による介護技術講座。
認知症出前講座	3回実施 参加者総数149名	認知症にやさしい町づくり、顔の見える関係づくりを目的に出前講座の実施。
認知症子どもサポーター養成講座	2回実施 参加者総数360名	認知症にやさしい町づくり、顔の見える関係づくりを目的に小中学校での出前講座施

⑥自主事業（介護予防事業）

事業名（自主事業）	実施回数	目的および内容
健康麻雀サロン	10回実施 参加者総数257名	認知症予防、ボランティア活動の場の提供。麻雀講座の実施。

⑦地域ケア会議

事業名（自主事業）	実施回数	内容
地域ケア会議	2回（参加者32名）	個別ケース検討、地域資源の開拓等。

5 地域活動交流事業

①子育て・障害等相談件数 子育て関係2件 障害関係2件

②高齢者支援・認知症予防事業

事業名	実施回数	内 容
ゆうゆう東山田	月2回(21回開催) 参加者467名	自立から要介護2の高齢者対象。認知症予防、引きこもり防止。ミニイベントの実施。
ふきのとう	月2回(23回開催) 参加者600名	自立から要介護2の高齢者対象。認知症予防、引きこもり防止。会食会の実施
ケアプラ談話室	月2回(20回開催) 参加者220名	自立から要介護2の高齢者対象。認知症予防、引きこもり防止。茶話会の実施。
生き生きクラブ	活動随時(定例会13回) 参加者91名	生きがいつくり。介護保険外サービス、地域ニーズあったサークル立上げ、庭木剪定・浴室掃除。

③子育て支援

事業名	実施回数	内 容
ぞうさんくらぶ	月1回(11回開催) 参加者総数475名	未就園児と養育者。仲間づくりとストレス軽減、子育て情報提供。サロンの実施。
あそびのおもちゃランド	月1回(11回開催) 参加者総数569名	未就園児と養育者。仲間づくりとストレス軽減、ミニイベント、サロン実施。リースペースの実施。
親子体操 ころころぱんだ	月1回(14回開催) 参加者総数418名	未就園児と養育者対象。親子のスキンシップ、仲間づくり。インストラクターによる体操教室
ママと赤ちゃんの健康講座(区共催)	年2回実施 参加者総数120名	離乳食期の子どもと養育者。仲間づくり、子育て情報提供、離乳食教室、心育て講座。
山田富士公園で遊ぼう	月1回(9回開催) 参加者総数500名	仲間づくり、子育て情報提供、地域資源同士の顔の見える関係づくり。公園遊び。
小児救急法	2回開催 参加者総数66名	小児救急法の基礎知識の取得。仲間づくり。消防署職員による救急法講座。
子育てサポートシステム出張説明会	1回開催 参加者総数2名	システムの普及啓発、説明会の実施。
子育てボランティア交流会	1回(参加者7名)	ボランティア活動促進とカフェ形式の交流会。

④障害児者支援

事業名	実施回数	内 容
アフリカダンスくらぶ	月1回(11回開催) 参加者106名	発達障害の子どもと養育者の交流。遊びの場の提供。インストラクターによるアフリカダンス教室。
レザークラフト体験講座	1回実施 参加者数8名	生活支援センター「こころ野」の周知。子どもたちの夏休み思い出づくり。
障害者ポスティングボランティア	24回実施 参加者数72名	障害者の就労支援、外出の機会を目的に集合住宅へのポスティング実施。

⑤地域支援・ボランティア活動支援

事業名	実施回数	内 容
けあぶらまつり	5月11日実施	障害者団体の活動、サークル団体の発表を目的して東山田連合町内会、ボラ団体と共催。
東山田連合町内会納涼盆踊	8月1～2日	ケアプラザの周知と地域連携。駄菓子、お面等の販売。
東山田ボランティア友の会	不定期(23回実施) 参加者186名	ボランティアの交流・育成。研修会の企画・運営。ボランティア養成の事業企画、運営。
すみれが丘けやきの会	随時(定例会7回) 参加者48名	住民相互の助け合い、介護予防講座。コーディネートと地域ニーズにあった講座実施。
子どもも大人もボランティア体験	4回(参加者11名)	ボランティアミニ講座、ボラ団体の活動参加、イベントへの参加。
ケアプラザ大掃除(ボランティア活動をしよう！)	2回実施 参加者総数23名	ボランティア体験、参加者交流、施設の美化のため貸館エリアの掃除、ミニ講座実施。

男の料理教室	1コース(6回)実施 参加者58名	男性の地域デビュー、仲間づくり、認知症予防のため準備から片付けまで行う料理教室
福祉教育(学校と共催)～職場体験実習～	6回実施 14名参加	小中学生の福祉体験実習の受け入れ。学校で実施する福祉体験実習への参加。
山田小学校6年生との福祉交流会	1回(3日間)実施 参加者83名	福祉教育として福祉ミニ講座と通所介護事業での高齢者との交流。
北山田駅前広場・スマイルコレクション	1回(参加者200名)	子育てを地域で見守る土壌づくり。Tシャツを作り、駅前でファッションショーを実施。
ケアプラギャラリー	常設 (毎月更新)	地域活動の紹介とつながり作り。個人やサークルの写真、絵画、書画等の作品展示。
貸館団体交流会	2回(参加者37名)	貸館ルールの周知、団体間の交流。

⑥広報活動

- ・ 広報紙「けあぷら通信」 1回2,200部発行(4回) 情報提供を掲載
- ・ 開催事業ちらし 1回1種類各2,200部発行(12回60種類)
- ・ ホームページ 広報紙の他、自主事業の案内等を掲載(1か月に1回更新)

6 運営協議会

第1回(平成26年6月24日) 平成26年度事業計画等

第2回(平成27年2月17日) 平成26年度事業報告、平成27年度事業展開等

東山田地域ケアプラザ苦情解決事業：0件